



## 新春インタビュー: GPシステム創設者 早稲田大学小野田准教授にお話を聞きました

現在、循環型社会のさらなる高度化に向けた議論が関係各所で活発になっています。そのなかで、マテリアルリサイクルを中心としたシステムから2R (Reduce, Reuse)への転換が強く求められています。自動車リサイクルにおいてもその例外はなく、自動車リサイクル部品の普及促進に対する社会的なニーズは今後ますます高まってくるでしょう。

循環型システムの高度化に向けては、関係各主体のさまざまな観点での連携が極めて重要となります。使用済み製品等の排出事業者、解体・リサイクル事業者、エンドユーザー等が循環型社会の高度化に向けた共通認識を醸成すること、相互の情報共有等を通じて需要と供給のミスマッチの解消を図ること、システム全体のトレーサビリティを確保すること等が挙げられます。これらを通じて低環境負荷かつ安全・安心なシステムを実現することが必要条件といえるでしょう。

自動車リサイクルにおける解体事業者は、ELVからリサイクル部品を供給する生産者となります。整備工場等との効果的な連携を図りながら、生産者として品質を確保するのは当然のこと安定的に部品を供給する体制を構築することが期待されます。また、昨今の情勢から部品の供給に伴うCO2削減のみならず、解体工場等の事業所における省エネ・節電対策の推進も社会的な要請となっています。業界一体となった環境対策の推進を期待します(早稲田大学環境総合研究センター・准教授 小野田弘士)



※次号からGPS利用者の有効活用事例をご紹介します。

## グリーンポイントクラブ参加企業のCO2削減効果(2013年9月～11月)

12団体		9月	10月	11月
販売点数	中古部品	242,471 (100.1)	255,256 (93.4)	249,002 (96.8)
	リビルド部品	41,836 (104.1)	41,406 (104.4)	40,181 (104.5)
	合計	284,307 (100.7)	296,662 (94.8)	289,183 (97.8)
グリーンポイント CO2削減効果数値	kg-co2	12,240,794	12,160,020	12,003,318
	t-CO2	12,241 (106.2)	12,160 (99.6)	12,003 (101.9)

※左記の販売点数は、同業者間を除く整備事業者などへ販売した点数で、NGP・SPN・JAPRA・JTPの各システムより提供いただき、集計した数値です。  
※( )は前年同月比

## グリーンポイントシステム: 営業ツールとしての有効活用②

グリーンポイントシステムでは、CO2集計ソフトを活用することができます。

■ディーラー等の複数拠点をまとめて環境貢献レポート印刷する機能があります。ディーラー本社統括部門に対し全拠点分を毎月報告できます。

■お客様毎に期間別1か月単位の部品購入点数とCO2削減効果数値を時系列にまとめた一覧表を出力でき、1年間の結果報告等に活用できます。

※詳しくは「CO2集計ソフトのご案内」を参照してください

